



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月10日

上場会社名 株式会社富士ピー・エス  
 コード番号 1848 URL <https://www.fujips.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堤 忠彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 江里口 俊郎

TEL 092-721-3464

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	20,920	0.7	1,382	129.5	1,355	128.6	904	131.6
2020年3月期第3四半期	20,769	10.8	602	32.0	592	36.5	390	48.3

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 904百万円 (131.1%) 2020年3月期第3四半期 391百万円 (73.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	51.02	
2020年3月期第3四半期	22.04	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	27,072	8,946	33.0	504.50
2020年3月期	24,083	8,196	34.0	462.44

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 8,946百万円 2020年3月期 8,196百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		9.00	9.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年1月1日に連結子会社の株式会社シーピーケイを吸収合併したことに伴い、2021年3月期につきましては非連結での決算発表となるため、2021年3月期の連結業績予想は記載していません。

なお、個別業績予想については、本日(2021年2月10日)公表いたしました「2021年3月期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	18,602,244 株	2020年3月期	18,602,244 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	869,496 株	2020年3月期	878,857 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	17,727,413 株	2020年3月期3Q	17,722,697 株

(注) 期末自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(現 株式会社日本カस्टディ銀行)(信託口))が保有する当社株式(2021年3月期3Q 116,000株、2020年3月期 125,400株)が含まれています。

また、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(現 株式会社日本カस्टディ銀行)(信託口))が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。(2021年3月期3Q 121,350株、2020年3月期3Q 126,090株)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の長期化に伴う国内外の経済活動の停滞や縮小により極めて厳しい状況で推移しており、各種政策の効果による持ち直しの動きはあるものの、予断を許さない状況が続いております。

当建設業界におきましては、公共建設投資は、総額15兆円規模の5ヵ年国土強靱化加速化対策が新たに昨年末閣議決定されるなど、引き続きインフラ老朽化対策など必要性の高い事業を中心に底堅く推移していくと見込まれます。一方で、民間建設投資は、景気の不透明感の高まりにより消費者の購買意欲が低迷し、マンションなど住宅分野への投資は低水準で推移することが懸念されますが、集合住宅の老朽化に伴う維持更新需要は中長期的に継続するものと期待されます。

このような経営環境のもと、当社グループは、2025年度を最終年度とする第4次中期経営計画「VISION2016」の中間点である5年目を迎え、本計画に掲げた成長目標の早期達成と次なるステージへのステップアップに向け、新たな市場開拓のための経営リソース（ヒト・モノ・カネ＝量と質の人材、技術・生産設備、財務）の充実に取り組みながら企業活動を行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、引き続き現場や工場及びその他の各事業所において新型コロナウイルス感染症対策を最大限に講じたうえで、現場施工及び工場生産の継続を最重要課題として取り組んでまいりました。また、プレキャスト化の需要の高まりに対応するために、引き続き実施しております既存工場の増産体制の構築も計画通りに進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては土木事業、建築事業ともに、受注高は減少し11,935百万円(前年同四半期比40.9%減)となり、売上高は、建築事業の減収に対し土木事業の増収が上回り20,920百万円(前年同四半期比0.7%増)となりました。損益につきましては、売上高の増加に加え、採算性が大幅に改善したことにより、営業利益1,382百万円(前年同四半期比129.5%増)、経常利益1,355百万円(前年同四半期比128.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益904百万円(前年同四半期比131.6%増)となりました。

第3四半期の受注高につきましては、前年同四半期に比べ大きく減少しておりますが、後述のセグメントごとの経営成績に記載のとおり、第4四半期に土木事業の受注が見込まれるため、当連結会計年度末の受注高は前連結会計年度末を上回るものと見込んでおります。

なお、当第3四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により第1四半期連結累計期間において生じていた建築事業における現場着工遅れ等による売上高への影響は回復しつつあり、当社グループ全体の業績に対する影響は軽微なものとなっております。また、当連結会計年度における当社グループの業績に対する影響は軽微なものとして判断しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①土木事業

受注高は、公共事業の発注がやや後ろ倒しの状況となったことに加え、NEXC O 中日本発注の大型補修補強工事の技術提案交渉方式案件での交渉が第4四半期になったこともあり、8,765百万円(前年同四半期比40.6%減)となりました。ただし、第4四半期においては、国土交通省や地方自治体発注の大型案件への入札参加に加え、NEXC O 中日本発注大規模更新の床版取替工事の継続契約方式案件の契約やNEXC O 西日本発注及びJRTT発注の大型繰越工事の設計変更増額が予定されていることにより、当連結会計年度の受注高は、前連結会計年度を上回ると見込んでおります。

売上高は、第2四半期に引き続き民間鉄道会社発注の連続立体交差事業、JRTT発注の九州、北陸新幹線工事、NEXC O 発注の床版取替工事など大型の繰越工事が順調に進捗したことにより、15,835百万円(前年同四半期比1.8%増)となり、セグメント利益は、複数の大型工事の追加設計変更協議が順調に推移したことに加え原価低減が図られたことで採算性が大幅に改善したことにより、2,944百万円(前年同四半期比50.0%増)となりました。

②建築事業

受注高は、首都圏の物件で契約遅れが生じたことから、2,932百万円(前年同四半期比43.3%減)となりました。当連結会計年度の受注高は、新型コロナウイルス感染症の長期化による民間投資の落ち込みや契約遅れの影響を受け、前連結会計年度を下回ると見込んでおります。

売上高は、第1四半期で生じた新型コロナウイルス感染症の影響による現場着工遅れと現場一時休止時の製造調整が当第3四半期までには完全な回復には至らなかったことにより、前年同四半期比1.2%減の4,897百万円となりました。セグメント利益は売上高が減少した結果、前年同四半期比2.4%減の607百万円となりました。

③不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は、テナント獲得の競争激化は依然継続しているものの、安定した入居率の確保を目指して営業活動を展開した結果、受注高237百万円(前年同四半期比1.9%減)、売上高183百万円(前年同四半期比1.0%増)となりました。セグメント利益は、設備更新による減価償却費の増加のため、94百万円(前年同四半期比13.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は27,072百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,989百万円の増加となりました。主な要因は、その他流動資産が1,128百万円、未成工事支出金が830百万円、現金預金が626百万円及び受取手形・完成工事未収入金等が318百万円増加したことであります。

(負債)

負債合計は18,126百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,239百万円の増加となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金等が906百万円、電子記録債務が631百万円減少したものの、預り金が1,362百万円、長期借入金1,335百万円、短期借入金798百万円及び未払法人税等が340百万円増加したことであります。

(純資産)

純資産合計は8,946百万円となり、前連結会計年度末に比べ750百万円の増加となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益904百万円の計上、剰余金の配当160百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2020年11月10日に公表いたしました「完全子会社の吸収合併に関するお知らせ」に記載の通り、当社グループにおける経営資源の集中と組織運営の強化および効率化を図るため、連結子会社である株式会社シーピーケイを2021年1月1日付で吸収合併いたしました。これにより連結子会社がなくなったため、当期における連結業績予想の開示はございません。

当事業年度における業績予想につきましては、2021年2月10日の「2021年3月期 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通り、前回発表予想（2020年5月13日）を下記の通り修正いたします。

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	27,860	950	930	645	36.39
今回修正予想 (B)	27,700	1,480	1,460	1,060	59.79
増減額 (B - A)	△160	530	530	415	23.40
増減率 (%)	△0.6	55.8	57.0	64.3	64.3

大型の繰越工事が順調に進捗し、追加設計変更契約協議も順調に推移したことに加え、原価低減による採算性の大幅な改善により2021年3月期第3四半期において大幅な増益となりました。2021年3月期第4四半期においても、順調な進捗が見込まれており、前回の予想値より営業利益、経常利益及び当期純利益が増加する見通しとなりました。

また、配当予想につきましては、今回新たに公表いたしました2021年3月期の業績予想を踏まえ、1株当たり配当金を前回発表予想の9円から3円増配の12円に修正いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症が業績予想に及ぼす影響につきましては、「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1) 経営成績に関する説明」に記載した通り、現時点では軽微なものと判断しております。当社グループへ及ぼす影響を、今後も継続して慎重に見極め、業績予想の修正が必要であると判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,576	2,202
受取手形・完成工事未収入金等	13,828	14,147
製品	299	237
未成工事支出金	489	1,319
材料貯蔵品	189	307
未収入金	245	125
その他	38	1,167
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	16,657	19,498
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	1,466	1,495
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	1,545	1,547
土地	3,439	3,435
リース資産（純額）	0	24
建設仮勘定	141	102
有形固定資産合計	6,593	6,605
無形固定資産		
のれん	36	23
その他	11	22
無形固定資産合計	48	45
投資その他の資産		
投資有価証券	167	165
退職給付に係る資産	326	357
繰延税金資産	145	254
その他	144	145
投資その他の資産合計	783	923
固定資産合計	7,425	7,574
資産合計	24,083	27,072

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,337	3,430
電子記録債務	2,880	2,249
短期借入金	3,334	4,132
未払法人税等	98	438
未成工事受入金	603	724
預り金	1,748	3,110
完成工事補償引当金	30	22
工事損失引当金	—	18
その他	1,304	1,159
流動負債合計	14,336	15,287
固定負債		
長期借入金	265	1,600
株式給付引当金	46	61
退職給付に係る負債	911	895
その他	328	281
固定負債合計	1,550	2,838
負債合計	15,887	18,126
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,379	2,379
資本剰余金	1,748	1,748
利益剰余金	4,521	5,264
自己株式	△370	△364
株主資本合計	8,278	9,028
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5	9
退職給付に係る調整累計額	△87	△92
その他の包括利益累計額合計	△82	△82
純資産合計	8,196	8,946
負債純資産合計	24,083	27,072

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	20,769	20,920
売上原価	18,057	17,272
売上総利益	2,712	3,648
販売費及び一般管理費	2,109	2,265
営業利益	602	1,382
営業外収益		
物品売却益	4	7
その他	11	17
営業外収益合計	16	25
営業外費用		
支払利息	7	17
支払保証料	12	13
固定資産処分損	3	10
その他	2	11
営業外費用合計	25	52
経常利益	592	1,355
特別損失		
投資有価証券評価損	—	16
有形固定資産除却損	—	30
特別損失合計	—	47
税金等調整前四半期純利益	592	1,307
法人税、住民税及び事業税	105	514
法人税等調整額	96	△111
法人税等合計	202	403
四半期純利益	390	904
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	390	904

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	390	904
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	4
退職給付に係る調整額	2	△4
その他の包括利益合計	0	△0
四半期包括利益	391	904
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	391	904
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	土木事業	建築事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,556	4,955	181	20,693	75	20,769	—	20,769
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,556	4,955	181	20,693	75	20,769	—	20,769
セグメント利益	1,963	622	108	2,694	17	2,712	—	2,712

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業及び建設資機材のリース等であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,694
その他の利益	17
販売費及び一般管理費	△2,109
四半期連結損益計算書の営業利益	602

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	土木事業	建築事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,835	4,897	183	20,916	4	20,920	—	20,920
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,835	4,897	183	20,916	4	20,920	—	20,920
セグメント利益	2,944	607	94	3,646	1	3,648	—	3,648

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業及び建設資機材のリース等であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,646
その他の利益	1
販売費及び一般管理費	△2,265
四半期連結損益計算書の営業利益	1,382

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。